

1 調査名称：新潟県総合都市交通体系調査

2 調査主体：新潟県

3 調査圏域：新潟県

4 調査期間：平成23年度～平成27年度

5 調査概要：

新潟県の長期未着手都市計画道路の現状（H23.3.31現在）は、都市計画決定済みの幹線街路延長1,696kmに対して、整備済みが1,012km、整備中は75km、未着手は609kmであり、未着手となっている609kmのうち、555kmが20年以上の長期未着手路線となっている。

人口減少や少子高齢化の進行、中心市街地の衰退など、社会情勢の変化を踏まえて適切に長期未着手都市計画道路の見直しを行う必要があるが、見直しは、まちづくりの視点から一体的に行う必要があるため、地域に密着した基礎自治体である市町村が主体となり取り組みが進められている。

新潟県では、市町村の取り組みを促進するため、平成18年12月に「新潟県都市計画道路見直しガイドライン」を策定するとともに、市町村と連携し、都市計画道路の見直しに必要な「将来交通量の推計」及び「検証」作業を平成22年度から実施しており、今回は、五泉市における「将来交通量の推計」及び「道路ネットワークからの検証」に係る調査を五泉市と連携し新潟県で実施したものである。

(様式－2 a 調査概要)

## I 調査概要

1 調査名：新潟県総合都市交通体系調査

## 2 報告書目次

### 1章 業務の概要

### 2章 道路ネットワークからの検証

#### 2-1 推計方法と交通量配分用データの作成

##### 2-1-1 推計方法

##### 2-1-2 ゾーニング

##### 2-1-3 道路ネットワーク

##### 2-1-4 交通量推計の方法

#### 2-2 交通量配分

##### 2-2-1 現況交通量配分結果

##### 2-2-2 現況交通量配分の再現性

##### 2-2-3 将来交通量配分結果

#### 2-3 道路ネットワークからの検証

##### 2-3-1 都市計画道路の現状

##### 2-3-2 都市計画道路の見直し案

##### 2-3-3 現況交通量による検証

##### 2-3-4 将来交通量配分による検証

### 3章 交通現況調査

#### 3-1 調査の概要

#### 3-2 調査日の概要

#### 3-3 調査結果の概要

3 調査体制

なし

4 委員会名簿等：

なし

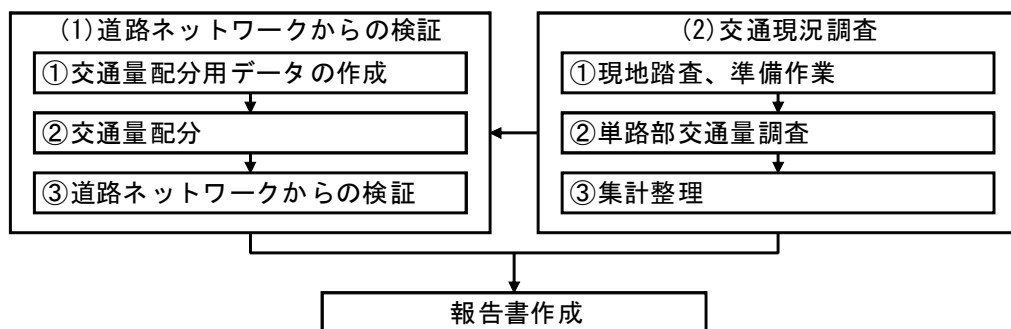
## II 調査成果

### 1 調査目的

本調査は、新潟県の都市計画道路の見直し方針について、「新潟県都市計画道路見直しガイドライン」（平成18年12月）に基づき、「道路ネットワークからの検証」を行うことを目的とする。

うち平成23年度は五泉市を対象に「道路ネットワークからの検証」を行う。

### 2 調査フロー



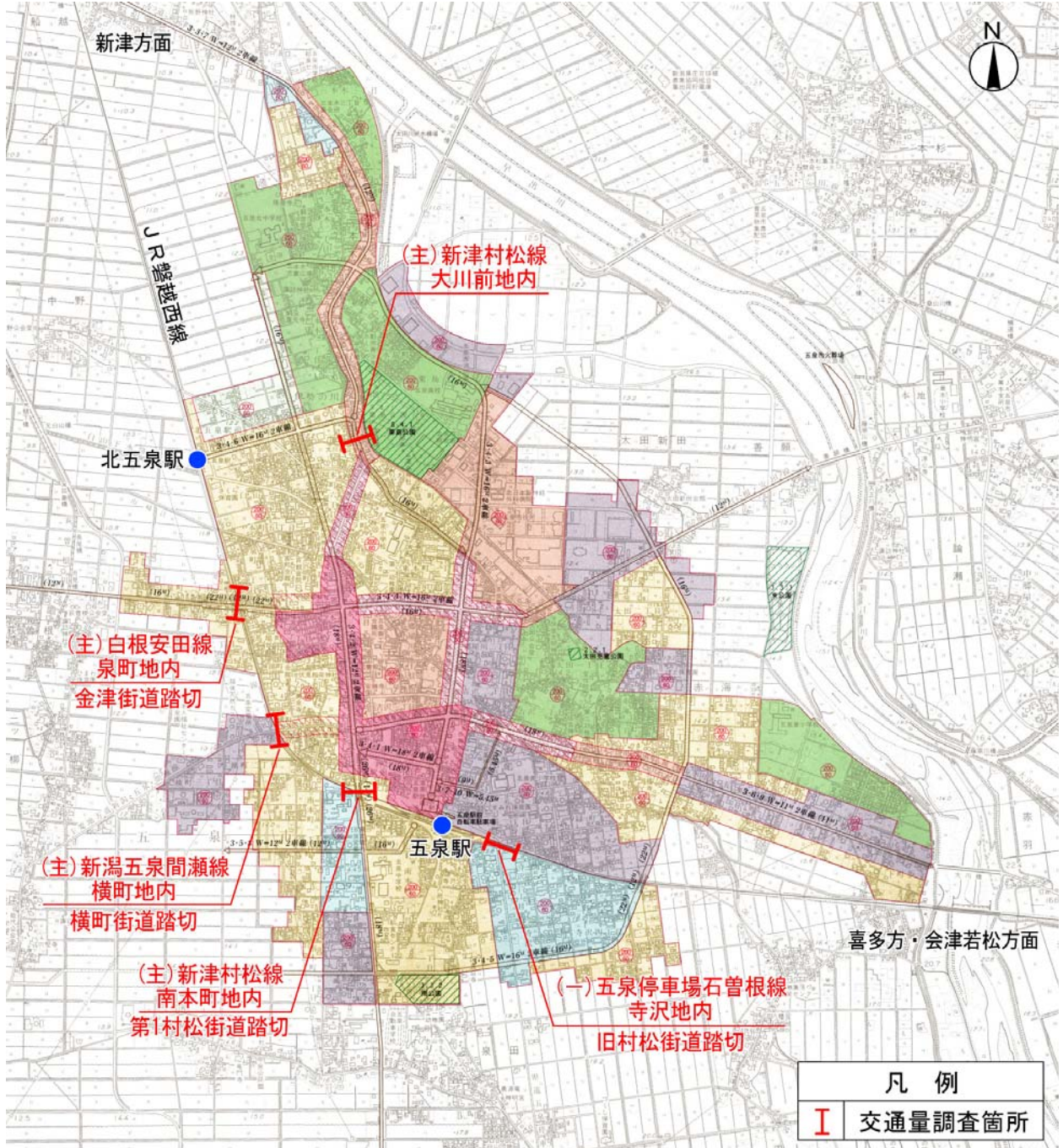


#### 4 調査成果

##### (1) 交通量現況調査

○交通量配分を行うための調査として、交通量現況調査を行った。

調査箇所は下記のとおり



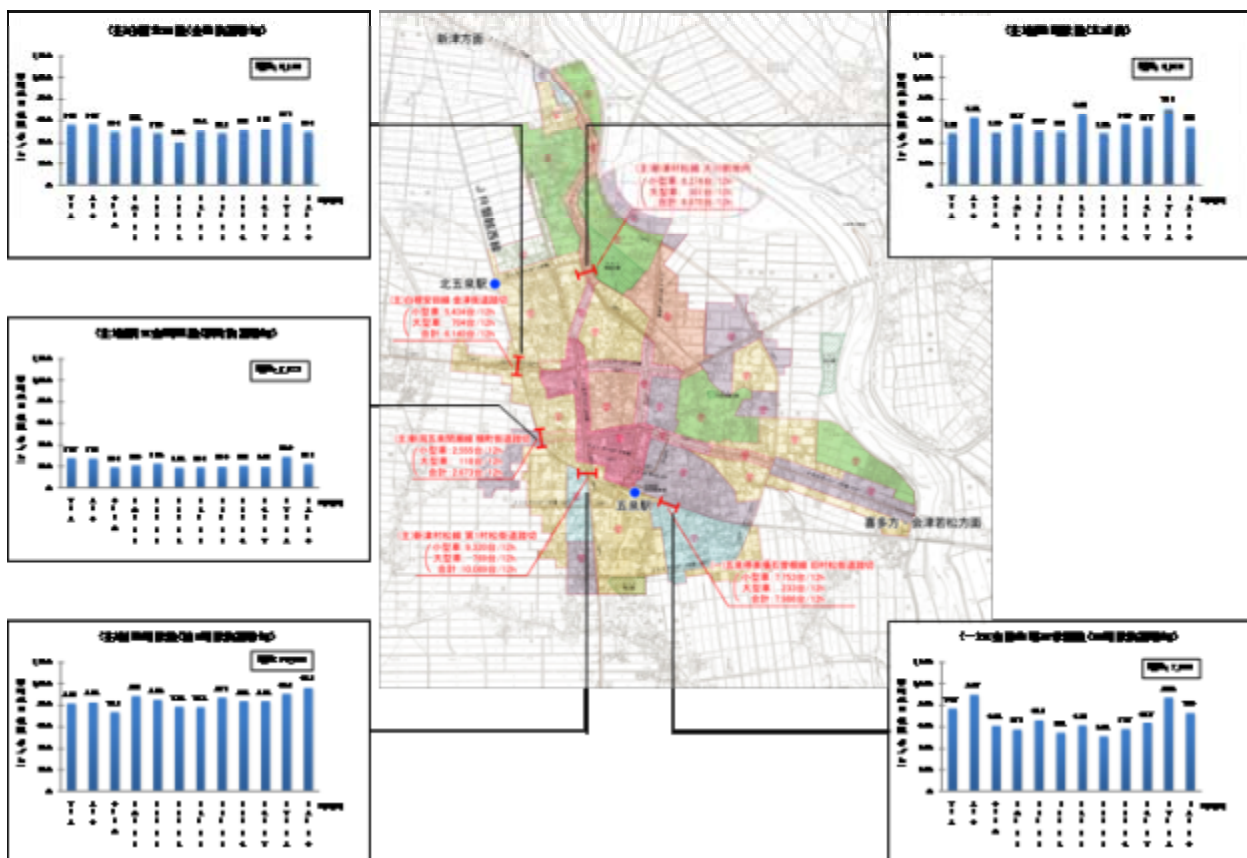
○調査結果

交通現況調査結果 [自動車、H23. 12. 21(水)]

路線	調査箇所	調査結果 (台/12h)		
		小型車	大型車	合計
(主)新津村松線	大川前地内	6,374	301	6,675
(主)白根安田線	金津街道踏切	5,434	706	6,140
(主)新潟五泉間瀬線	横町街道踏切	2,555	118	2,673
(主)新津無村松線	第1村松街道踏切	9,320	769	10,089
(一)五泉停車場石曾根線	旧村松街道踏切	7,753	233	7,986

交通現況調査結果 [歩行者・自転車、H23. 12. 21(水)]

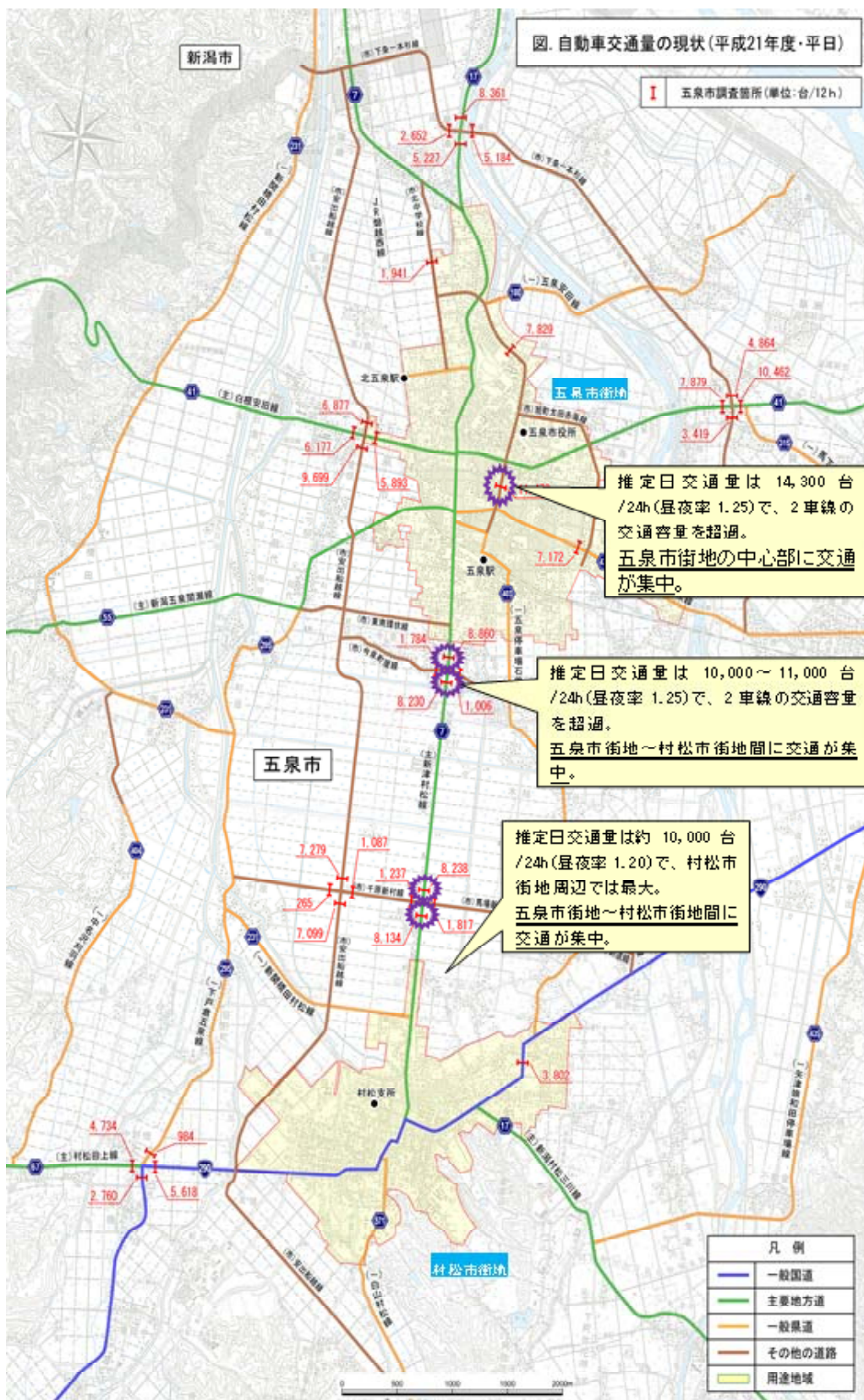
路線	調査箇所	調査結果 (人/12h、台/12h)	
		歩行者	自転車
(主)新津村松線	大川前地内	26	34
(主)白根安田線	金津街道踏切	131	35
(主)新潟五泉間瀬線	横町街道踏切	42	65
(主)新津無村松線	第1村松街道踏切	399	109
(一)五泉停車場石曾根線	旧村松街道踏切	562	253



交通現況調査結果 [自動車、H23.12.21(水)]

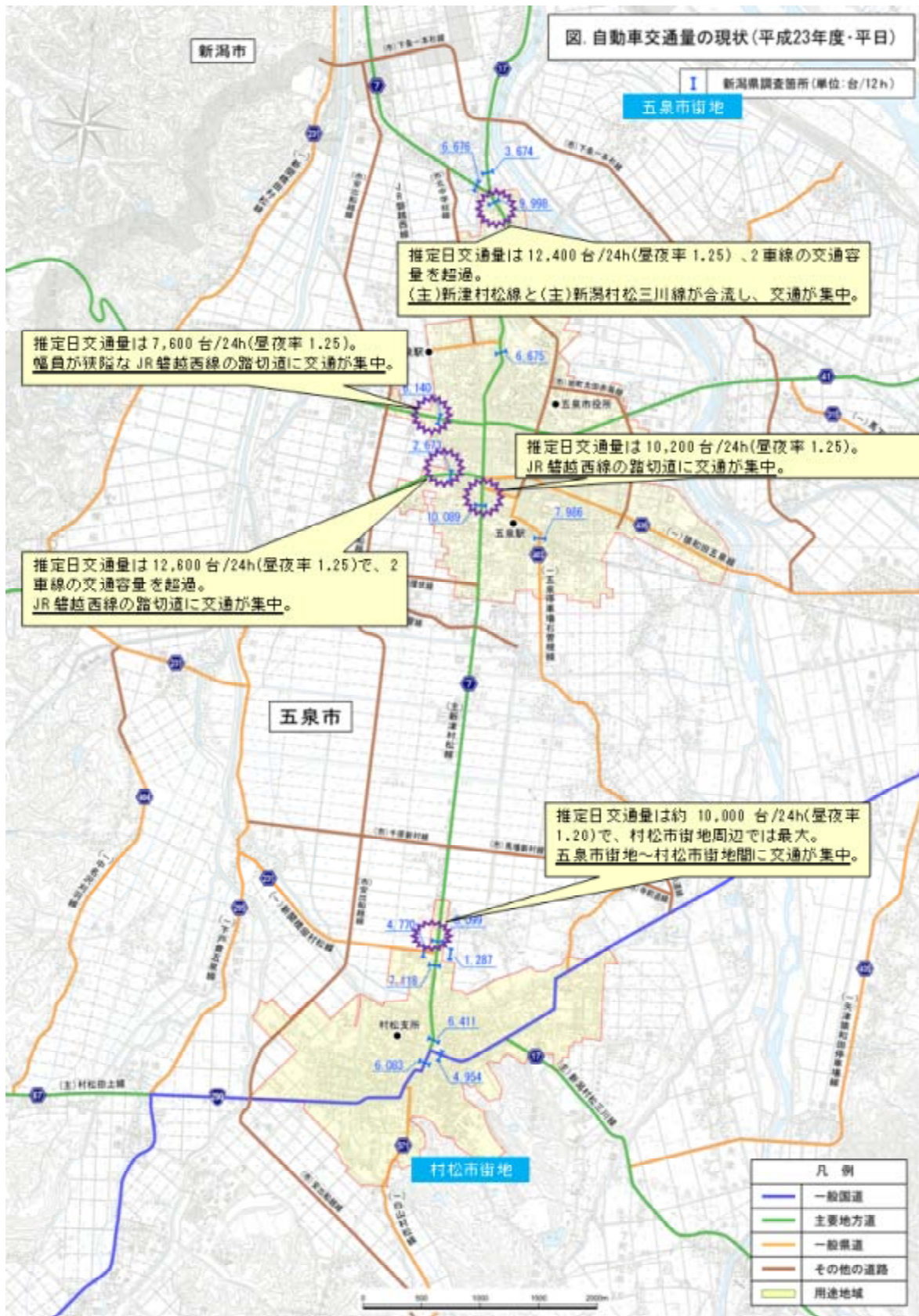
(2) 現況交通量による検証

○交通現況調査の結果及び道路交通センサスなどの既往資料をもとに、課題を抽出し、見直し案により課題に対応できることを検証した。



自動車交通量の現状 (平成21年度・平日)





自動車交通量の現状(平成23年度・平日)

## 課題 1. 五泉市街地の鉄道横断道路の交通円滑化や安全性向上など

- 五泉市街地は J R 磐越西線が通過しており、市街地内を流動する交通は鉄道横断道路に集中しやすい状況にある。
- このような中で、五泉駅周辺の(主)新津村松線や(一)五泉停車場石曾根線の踏切道には自動車交通と歩行者・自転車が集中しており、都市内交通の円滑性確保や安全性確保が課題となっている。
- また、五泉市街地を横断する(主)白根安田線は幅員不足のため交通容量が低い、自動車交通が集中して混雑度が1.0を超過しているうえ、歩行者の安全性など生活環境の改善にも課題がある。



(主)新津村松線 (第1村松街道踏切) の現状



(主)白根安田線 (金津街道踏切の周辺) の現状

## 課題 2. 五泉市街地の中心部の交通円滑化

- 五泉市街地は、同市街地と周辺都市・地域を連絡する(主)新津村松線や(主)白根安田といった県道が通過するとともに、市街地内の拠点を連絡する(都)五泉駅前通1号線等の都市内幹線道路が配置されている。

○このため、特に公共公益施設や商業業務施設等が集積する五泉市役所周辺や商店街付近において交通が集中し、円滑性確保が課題となっている。



(都) 五泉駅前通第1号線の現状



(主) 新津村松線の現状

### 課題3. (主) 新津村松線の交通円滑化

- 五泉市街地の北側において、五泉市～新潟市間を連絡する(主)新津村松線と(主)新潟村松三川線が合流して交通が集中する。この区間における、交通円滑化が課題である。
- 五泉市街地～村松市街地間においても、(主)新津村松線に交通が集中しており、市域の一体性向上を推進するうえで交通円滑化が課題である。

(3) 将来交通量配分による検証

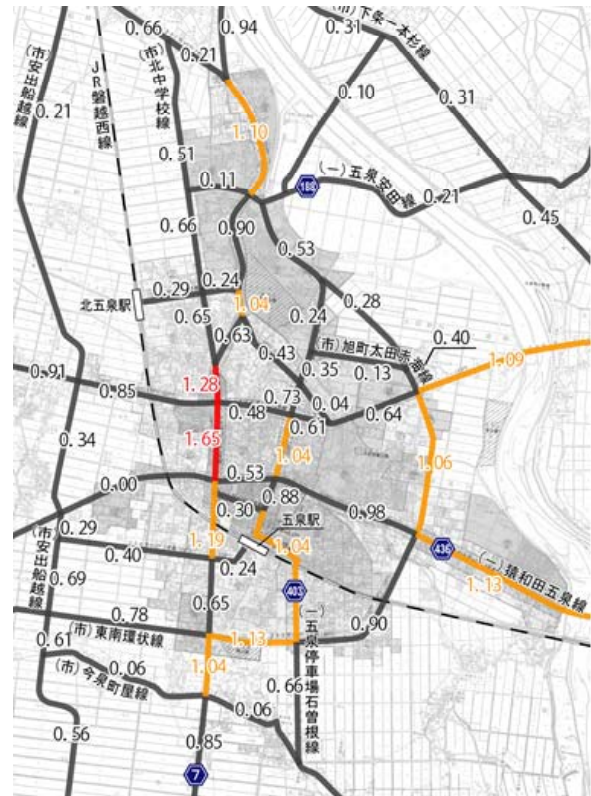
○将来交通量配分を行い、現計画と見直し案の比較を行い、自動車交通需要に対する道路ネットワークや交通容量の妥当性について検証を行った。

現計画における将来交通量配分は下図のとおり。

(五泉市街地)



将来交通量配分結果 (都市計画道路の現計画)

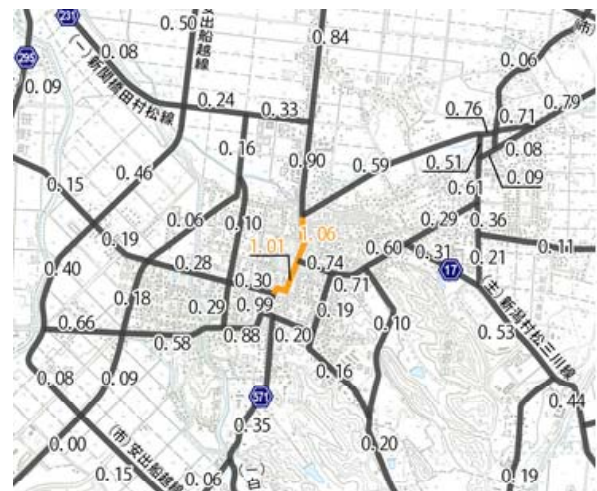


混雑度 (都市計画道路の現計画)

(村松市街地)



将来交通量配分結果 (都市計画道路の現計画)



混雑度 (都市計画道路の現計画)